

## 平成28年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	100年カラマツの木っ端はゴミじゃない。実証事業
事業主体 (連絡先)	一般社団法人 脇田美術館 東京事務所 担当 岩田 希美 TEL 03-5785-4138
事業区分	(6)ウ 森林づくりと林業の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,227,934円 (うち支援金: 1,662,000円)

### 事業内容

100年カラマツの枝材には、100年の歴史が詰まっており、独特の質感と存在感を見せてくれる。この枝材を生かし、木製玩具を商品化するため、試作品を開発して、子供を対象にしたワークショップで検証を行った。

- ・試作品の開発
- ・ワークショップの実施 3回



【ワークショップの実施状況】

### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

従来、伐採されたカラマツの幹は用材として、様々な用途に利用される。ただし、枝の部分は現場に放置されてきたが、今回の取組により玩具への利用が可能であることがわかった。

開発した玩具で遊んでもらいたいターゲットとして考えていた園児や小学校低学年の年齢層を対象にワークショップを実施したところ、飽きずに黙々と仕上げ作業を楽しんでもらっている様子などから一定の感触を得ることができた。

また、玩具のデザインを増やしていくことにより、より発想豊かに遊んでもらうことが可能と考える。

### 【目標・ねらい】

- ①子供が楽しめる方法の検討
- ②枝材利用の用途開発
- ③実用可能な玩具デザインの開発
- ④地域林業の活性化

### ※自己評価 【B】

#### 【理由】

ワークショップにおいて参加者の反応が良く、玩具の仕上げとなる磨く作業など、飽きることなく楽しみながら参加してもらうことができた。

### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

カラマツ高齢級材の利用促進と合わせて、枝材の利用を進める。  
ターゲットの園児、小学校低学年への教育プログラムとしてアプローチする。  
一般向けの商品として、木箱入りを商品として販売を進める。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある